

日本人起業家インキュベーション組織と留学ビジネスのクラスタ： フィリピンセブの事例研究

Case Study on Incubation center for entrepreneur and cluster of "study

佐脇英志（亜細亜大学）

キーワード：起業家、イノベーション、ネットワーキング

本研究は、著者が現在行っている「東南アジアの日本人起業家の実証研究」（科研費番号18K01762）の一環で、フィリピンセブの特異な起業家ネットワークに焦点を当て実施調査（インタビュー）研究したものである。現在フィリピンセブでは、日本の海外留学期長期低減の統計数字を変える（年間4万人）ほどの留学ビジネス活況を呈する中、巨大な日本人起業家のインキュベーション組織を形成している。英語ビジネスに集まった日本人若者が、海外ネットワークの中で、数々のイノベーションを巻き起こしながら起業して会社経営を始めている。急拡大する組織が細胞分裂をし、分裂した細胞が単に同質の細胞になるのではなく、様々な周辺ビジネスに進化し、ビジネスクラスターを形成し始めている。|具体的な研究対象企業の動向を説明する。フィリピンセブ島の韓国系の英会話スクールにヒントを得た藤岡氏が2011年に設立したQQ English社は、英語教師1000人を抱え、世界27か国から生徒が集まる地域最大の英会話スクールとなっている。QQから独立した横田氏は、Kredo社で、フィリピンの大学の工学部とコラボで、IT学校を経営。同様に、QQの生徒だった海仲由美氏は、自らの看護師の経験を活かして医療英語学校HLCAを設立し、国際社会で活躍できる看護師を育成。早川諒氏は、AHGS社を起し、自らのBPOの経験を使い、英会話スクールに集まる学資を対象に巨大コールセンターを運営し、日本の大手電話会社のバックオフィスを経営している。池田源成氏は、人材会社ゲンセイ企画を設立し、英会話スクールに集まった生徒の再就職先紹介事業を行っている。鈴木光貴氏の経営するユナイテッド・リグロース社では、現地でMBAスクールを設立し、さらに現地の英語教師を日本に輸出し、日本で英会話学校5校を設立した。マザーズ上場の株式会社レアジョブ（中村岳社長）はこれらの英会話スクールの教師陣の空いた時間使い、スカイプで日本とつなぎオンライン英会話教室を行っている。|まさにHandy1982の“Model of Organization Culture”の“Personnel Culture”、あるいはLaloux2014のReinventing Organization（ティール組織）の多元型組織（グリーン）にも通じる組織である|起業家のネットワークの研究に関しては、多くの先行研究があり（Baker 2000;Aldrich1999; Granovetter 1985,1992; Granovetter 1992）、日本でも研究されてきた（若林 2006;山田 2005; Hirata & Okumura 1995）が、このように起業家が細胞分裂を起し各起業家が繋がりクラスタを形成している例は少ない。日本では、かつて古川電工→富士電機→富士通→ファナックと企業が企業を生み出す文化があったが、今の日本企業では特異な例として分析する。